

## 2 緑化の手法

緑化計画では、施設の機能や緑化する空間の特性を考慮しながら、緑化の目的を考え、植物の配置や植栽材料の選定を行います。ここでは代表的な緑化の手法を紹介します。

### 高木を中心とした緑化

- 高木によりボリュームのある緑化ができます。
- 視線を遮ったり、建築物の威圧感を軽減することができます。
- 樹木を密に植えることで、遮音機能や大気浄化機能などが向上します。
- 木陰をつくりだし、やすらぎや憩いの空間を提供することができます。
- 鳥や虫などの採餌の場や通り道にもなります。

#### ■樹木を列状に配置した緑化（列状植栽）

樹木を列状に配置した植栽です。直線的なラインを強調して統一感、連続感のある印象を与え、整然とした空間をつくりだします。



▲都市景観に調和した高木の列状植栽（左・大阪ビジネスパーク、右・梅田スカイビル）

#### ■樹木を群状に配置した緑化（群状植栽）

樹木を群状にまとめて配置した植栽です。まとめて植えて緑のボリューム感を出したり、ランダムに配置して自然的な印象を与える空間をつくりだします。



▲自然な印象を与える群状植栽（左・大阪ビジネスパーククリスタルタワー、右・大阪市淀川区の集合住宅）

## 地被類による緑化

- 芝やグランドカバー・プランツにより、広がりのある緑化ができます。
- 多様な色や形態の地被類を用い、バラエティに富んだ空間が創出できます。
- 高木・低木の足下などに使えば、より一層ひきたちます。



▲景観に広がりを与える芝生(左・六本木ヒルズ、右・大阪市城東区の集合住宅)



▲多様な色や形態の地被類の組み合わせ(左・HAT神戸、右・大阪ビジネスパーク マルイトビル)



▲高木の下を彩る地被類(左・東京汐留再開発エリア、右・なんばパークス)

### 草花を中心とした緑化(花壇などの花卉植栽)

- 草花を中心に、地被植物や低木を組み合わせ、華やぎのある空間ができます。
- 人々の目を和ませ、親しみ感や季節の彩りを演出することができます。
- 多様な色や形態の草花を用い、バラエティに富んだ空間が創出できます。



▲草花の色や形を活かし空間を彩る植栽(左・ハービスOSAKA、右・恵比寿ガーデンプレイス)



▲草花を自然風に配した植栽(左・OCAT屋上庭園、右・梅田スカイビル)



▲空間のシンボルとなる花壇植栽(左・右ともHAT神戸)

## コンテナ・プランターによる緑化（可動式緑化）

- コンテナやプランターを用いて、土壌の無い舗装面やベランダ・テラスなどへの緑化に適しています。
- 可動式であるため、レイアウトの変更が自由に行えます。
- ベンチなどと兼用したデザインのコンテナを用いれば、休憩スペースとして活用できます。



▲土壌の無い空間をコンテナで緑化（左・ユニバーサル・スタジオ・ジャパン™、右・東京汐留ビルディング・汐留住友ビル）



▲レイアウト変更が手軽にできるプランター緑化（左・榊竹中工務店大阪本店、右・HAT神戸）



▲ベンチを併設したコンテナで休憩場所を提供（左・そごう心齋橋本店、右・大阪ビジネスパーク マルイトビル）